

令和 6 年 4 月 3 日

在学生の皆様

國學院大學

教務部長 菅 浩二

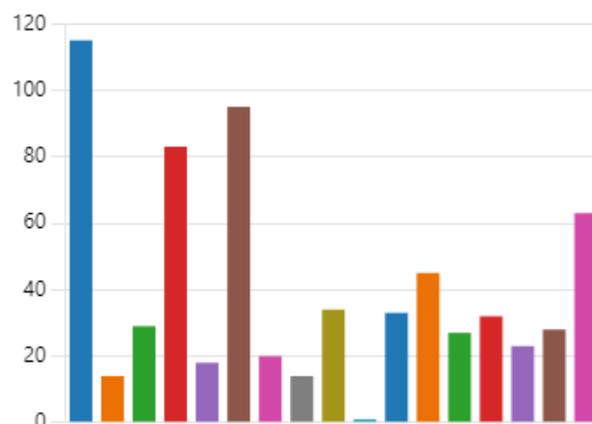
## 「学生の学修に関する実態調査」の結果について

この調査の目的は、今後の教育改善に向けて、学生の学修意識や学修実態を明らかにすることです。また、学生が調査に回答することで、自身の学びを振り返り、今後の学修や大学生活を充実させるための機会として活かしていただくことも意図しています。令和 5 年度に実施された本調査では、令和 6 年 3 月 1 日から 3 月 21 日までの期間に 674 人の学生から回答を得ることができ、回答率は 6.5% (674/10,333) でした。多くの学生の皆様にご協力いただき、心より感謝申し上げます。今後の調査では、より幅広い視点からのデータを得ることができるよう、回答率と調査結果の信頼性の向上に努めます。なお、教務部委員会では、令和 6 年秋頃に同様の調査を改めて実施する予定ですので、引き続き皆様のご協力をお願いいたします。

今回収集したデータについては、特に「Q11.令和 5 年度の対面授業と遠隔授業の比率」に焦点を当て、他の質問項目との関連性や属性による傾向などを検証し、令和 7 年度の授業実施形態の比率を決定する際の基礎資料として活用します。また、他の設問項目についても、カリキュラムの改善や教育方法の見直しなどに役立てる予定です。次のページ以降で、アンケート結果の概要を報告いたしますので、ぜひご確認ください。

Q1 あなたの所属学科等をお答えください。

● 日本文学科	115
● 中国文学科	14
● 外国語文化学科	29
● 史学科	83
● 哲学科	18
● 法律学科法律専攻	95
● 法律学科法律専門職専攻	20
● 法律学科政治専攻	14
● 経済学科	34
● 経済ネットワーク学科	1
● 経営学科	33
● 神道文化学科（昼間主）	45
● 神道文化学科（夜間主）	27
● 初等教育学科	32
● 健康体育学科	23
● 子ども支援学科	28
● 観光まちづくり学科	63



Q2 あなたの学年をお答えください。

● 1年	229
● 2年	195
● 3年	138
● 4年	112



## ■令和5年度の授業について

Q3 理解がしやすいように教え方が工夫されていた授業はどの程度ありましたか？

● よくあった	183
● ある程度あった	425
● あまりなかった	63
● なかった	3



「よくあった」「ある程度あった」の合計が608人(90.2%)に達し、学生の間で積極的な評価が比較的多く見られ、多くの学生が教え方に工夫が見られた授業を経験したことが示されています。一方、「あまりなかった」「なかった」の合計が66人(9.8%)であり、一部の教員の中には教え方が工夫されていない可能性もあります。

Q4 予習・復習など授業時間外に行うべき学習が指示される授業はどの程度ありましたか？

● よくあった	170
● ある程度あった	356
● あまりなかった	143
● なかった	5



「あまりなかった」「なかった」の合計が148人(22.0%)と、授業時間外の学修のための指示が少ないと感じた学生が比較的多いことが示されています。一方、「よくあった」「ある程度あった」の合計が526人(78.0%)に達しているため、授業時間外の学習を促す指示がある授業も多いことが示されています。

Q5 課題等の提出物に適切なコメントが付されて返却される授業はどの程度ありましたか？

● よくあった	73
● ある程度あった	223
● あまりなかった	304
● なかった	74



「あまりなかった」「なかった」の合計が378人(56.1%)に達し、適切なコメントが返却される授業が不足していると感じる学生が多いことが示されています。一方、「よくあった」「ある程度あった」の合計が296人(43.9%)で、一定のコメントが付されて返却される授業も一部存在していることが示されています。適切なフィードバックは、学生の学修成果や理解度を向上させるために非常に重要だと考えています。

Q6 グループワークやディスカッションの機会がある授業はどの程度ありましたか？



「よくあった」「ある程度あった」の合計が 375 人 (55.6%) に達し、多くの学生が少なくともある程度はグループワークやディスカッションの機会がある授業に参加していることが示されています。一方、「あまりなかった」「なかった」の合計も 299 人 (44.4%) で、グループワークやディスカッションの機会が全くない授業も存在することが示されています。単なる知識の受け渡しにとどまらず、学生が自ら考え、意見を交換し合うことは深い理解を促進するために非常に重要だと考えています。

Q7 質疑応答など、教員等との意見交換の機会がある授業はどの程度ありましたか？



「よくあった」「ある程度あった」の合計が 423 人 (62.8%) に達し、多くの学生が少なくともある程度の意見交換の機会がある授業に参加していることが示されています。一方、「あまりなかった」「なかった」の合計も 251 人 (37.2%) で、教員との意見交換の機会が全くない授業も存在することが示されています。学生が質問したり、疑問点を解決する機会を提供することは、より深い理解を促進するために非常に重要だと考えています。

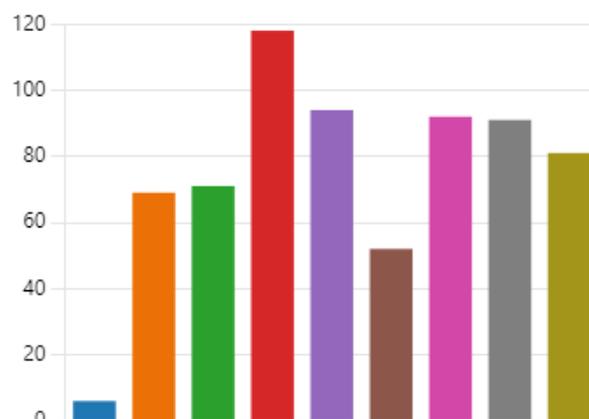
Q8 ティーチングアシスタントなどによる補助的な指導がある授業はどの程度ありましたか？



「あまりなかった」「なかった」の合計が 523 人 (77.6%) に達し、補助的な指導が提供されている授業は少ないことが示されています。一方、「よくあった」「ある程度あった」の合計が 151 人 (22.4%) で、補助的な指導が提供されている授業も一部ではあるものの、全体の割合は比較的低い状況です。ティーチングアシスタントなどによる補助的な指導を拡大することで、学修支援や指導の質を向上

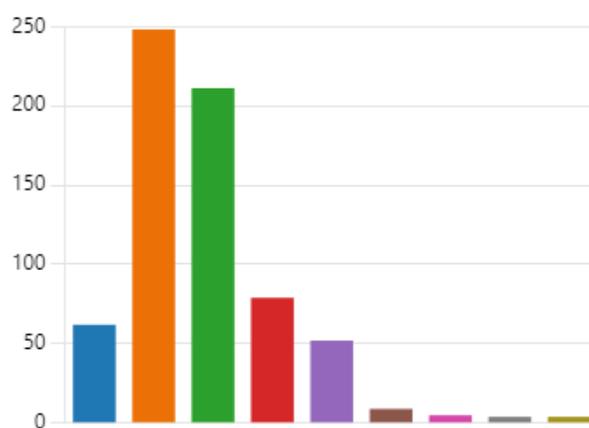
させる機会が提供できると考えています。

Q9 令和5年度の対面授業の履修科目数をお答えください。



学生の対面授業の履修科目数は幅広く分布しており、0科目から22科目以上まで多岐にわたっています。特に7科目から9科目の履修が最も多く、この範囲に該当する学生は118人（17.5%）です。この質問は、「Q11.令和5年度の対面授業と遠隔授業の比率についてどう思いますか。」とのクロス分析に際して活用します。

Q10 令和5年度の遠隔授業の履修科目数をお答えください。



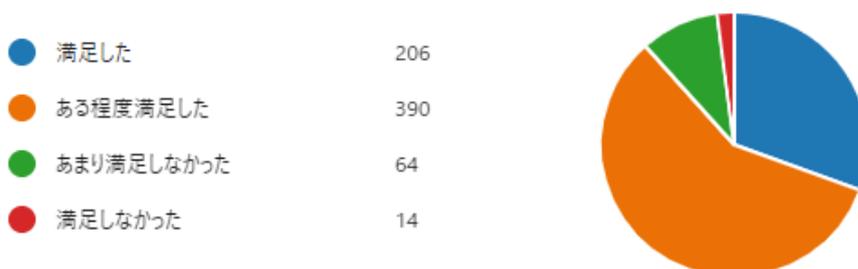
遠隔授業の履修科目数も幅広く分布しており、0科目から22科目以上までの範囲が存在します。1科目から3科目が最も多く、この範囲に該当する学生は248人（36.8%）です。一方で、10科目以上を履修している学生は比較的少なく、遠隔授業を多く受講する学生の中でも、科目数が過剰になる傾向はあまり見られません。また、63人（9.3%）の学生が遠隔授業を受講していませんでした。この質問は、「Q11.令和5年度の対面授業と遠隔授業の比率についてどう思いますか。」とのクロス分析に際して活用します。

Q11 令和5年度の対面授業と遠隔授業の比率についてどう思いますか。



383人（56.8%）が「ちょうどよい」と回答し、対面授業と遠隔授業のバランスに満足している学生が最も多いことが示されています。一方、「対面授業が多い（遠隔授業が少ない）」と回答した学生が249人（36.9%）おり、対面授業よりも遠隔授業を重視する学生が一定数存在します。なお、「遠隔授業が多い（対面授業が少ない）」と回答した学生は42人（6.2%）であり、遠隔授業よりも対面授業を重視する学生は少数派です。学生の間では、対面授業と遠隔授業のバランスに関する意見が分かれており、一部の学生は遠隔授業を好む一方で、他の学生は「ちょうどよい」と考えているようです。適切なバランスは、学修環境の質を高め、学生のニーズに合った教育を提供するためにも重要な要素だと考えています。今後は、属性（所属学科、学年）による傾向の違いや、Q9、Q10とのクロス分析などを行い、令和7年度の遠隔授業の運用方針の策定に際して、その結果を活用します。

Q12 令和5年度の授業全体の満足度についてどう思いますか。

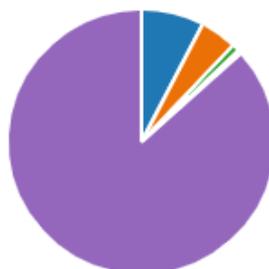


「満足した」「ある程度満足した」の合計が596人（88.4%）に達し、多くの学生が授業内容や教授の指導に一定の満足を感じていることが示されています。ただ、「ある程度満足した」という回答が最も多い一方で、「満足した」という回答はやや少なめです。これは、授業内容や教授の指導に対して改善の余地があると考えています。また、一部の学生からは「あまり満足しなかった」「満足しなかった」という回答もあり、その理由や要因についても考察する必要があると考えています。

## ■大学在学中の経験について

Q13 インターンシップ（5日間以上）はどの程度有用だったと感じますか。

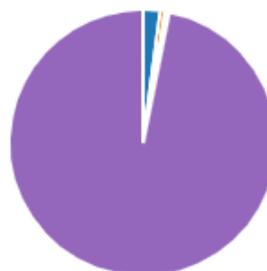
● 有用だった	51
● ある程度有用だった	30
● あまり有用ではなかった	6
● 有用ではなかった	3
● 経験していない	584



アンケートに回答した学生の大半が、インターンシップの経験がないと回答しています。有用性の評価に関しては、インターンシップを経験した学生の中で、51人（56.7%）が「有用だった」と回答し、30人（33.3%）が「ある程度有用だった」と回答しています。一方で、「あまり有用ではなかった」「有用ではなかった」と回答した学生はわずか9人（10.0%）でした。この結果から、多くの学生がインターンシップを有益な経験と認識していることが示されています。

Q14 海外留学・海外研修（短期も含む）はどの程度有用だったと感じますか。

● 有用だった	14
● ある程度有用だった	4
● あまり有用ではなかった	3
● 有用ではなかった	0
● 経験していない	653



アンケートに回答した学生の大半が、海外留学や海外研修の経験がないと回答しています。有用性の評価に関しては、海外留学や海外研修を経験した学生の中で、18人（85.7%）が「有用だった」「ある程度有用だった」と回答しています。一方で、「あまり有用ではなかった」「有用ではなかった」と回答した学生はわずか3人（14.3%）でした。この結果から、多くの学生が海外留学や海外研修を有用な経験と認識していることが示されています。なお、海外留学や海外研修を経験していない学生が大半を占めていることから、これらの機会を増やすなど、海外留学や海外研修へのアクセスを改善する必要があると考えています。

Q15 主に英語で行われる授業の履修（語学科目を除く）はどの程度有用だったと感じますか。

● 有用だった	30
● ある程度有用だった	196
● あまり有用ではなかった	101
● 有用ではなかった	26
● 経験していない	321



アンケートに回答した学生の半数以上が、英語での授業経験がないと回答しています。これは、本学が英語での授業をあまり提供できていないことを示しています。有用性の評価に関しては、英語での授業を経験した学生の中で 226 人 (64.0%) が「有用だった」「ある程度有用だった」と回答しています。一方で、「あまり有用ではなかった」「有用ではなかった」と回答した学生は 127 人 (36.0%) であり、評価が分かれています。英語での授業の有用性を高めるためには、教育の質の向上や、英語力が不足している学生への適切なサポートが必要だと考えています。

## ■大学教育を通じて身に付いた知識や能力などについて

Q16 専門分野に関する知識・理解はどの程度身に付いたと思いますか。

● 身に付いた	172
● ある程度身に付いた	419
● あまり身に付いていない	70
● 身に付いていない	13



「ある程度身に付いた」「身に付いた」の合計が 590 人 (87.5%) に達し、多くの学生が専門分野に関する知識や理解が一定程度以上身に付いたと考えています。一方、「あまり身に付いていない」「身に付いていない」の合計が 83 人 (12.5%) であるため、知識や理解が不十分であると感じる学生が一定数存在することが示されています。

Q17 将来の仕事につながるような知識・スキル・態度・価値観はどの程度身に付いたと思いますか。

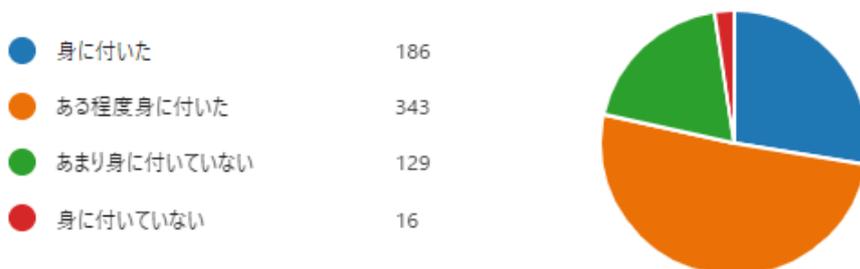
● 身に付いた	134
● ある程度身に付いた	350
● あまり身に付いていない	161
● 身に付いていない	29



「身に付いた」「ある程度身に付いた」の合計が 484 人 (71.8%) に達し、多くの学生が将来の仕事につながるような知識・スキル・態度・価値観が一定程度以上身に付いたと考えています。一方、「あまり身に付いていない」「身に付いていない」の合計が 190 人 (28.2%) であるため、将来の仕

事に必要な知識・スキル・態度・価値観が不十分であると感じる学生が比較的多いことも示されています。

Q18 文献・資料を収集・分析する力ほどの程度身に付いたと思いますか。



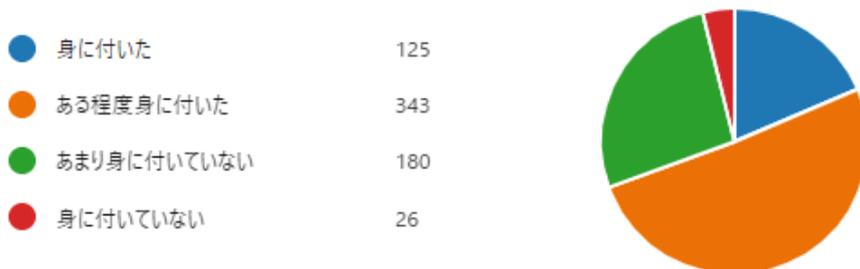
「身に付いた」「ある程度身に付いた」の合計が 529 人（78.5%）に達し、多くの学生が文献や資料を収集・分析する力が一定程度以上身に付いたと考えています。一方、「あまり身に付いていない」「身に付いていない」の合計が 145 人（21.5%）であるため、文献や資料を収集・分析する力に自信を持っていない学生が比較的多いことも示されています。

Q19 論理的に文章を書く力ほどの程度身に付いたと思いますか。



「身に付いた」「ある程度身に付いた」の合計が 514 人（76.3%）に達し、多くの学生が論理的な文章を書く力が一定程度以上身に付いたと考えています。一方、「あまり身に付いていない」「身に付いていない」の合計が 160 人（23.7%）であるため、論理的な文章を書く力に自信を持っていない学生が比較的多いことも示されています。

Q20 人に分かりやすく話す力ほどの程度身に付いたと思いますか。



「身に付いた」「ある程度身に付いた」の合計が 468 人（69.4%）に達し、多くの学生が人に分かりやすく話す力が一定程度以上身に付いたと考えています。一方、「あまり身に付いていない」「身に付いていない」の合計が 206 人（30.6%）であるため、人に分かりやすく話す力に自信を持っていない学生が比較的多いことも示されています。

Q21 外国語を使う力はどの程度身に付いたと思いますか。



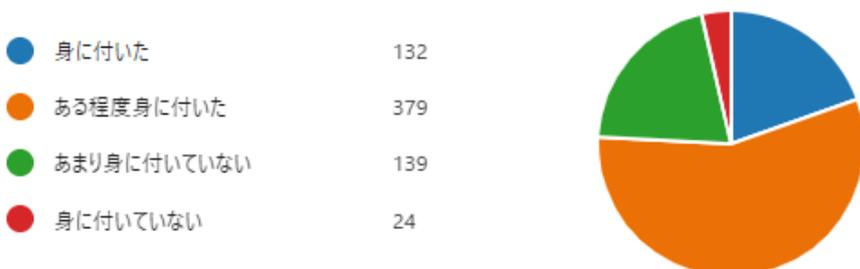
「身に付いた」「ある程度身に付いた」の合計が 209 人 (31.0%) と、外国語を使う能力に自信を持っている学生は比較的少ないことが示されています。一方、「あまり身に付いていない」「身に付いていない」の合計が 465 人 (69.0%) に達しているため、外国語を使う力に自信を持ってない学生が多いことも示されています。外国語を使う力は、学修時間や練習の量に大きく影響されるため、今後は十分な学修サポートが必要だと考えます。

Q22 数理・統計・データサイエンスに関する知識・技能はどの程度身に付いたと思いますか。



「身に付いた」「ある程度身に付いた」の合計が 231 人 (34.3%) と、数理・統計・データサイエンスに関する知識・技能に自信を持っている学生は比較的少ないことが示されています。一方、「あまり身に付いていない」「身に付いていない」の合計が 443 人 (65.7%) に達しているため、数理・統計・データサイエンスに関する知識・技能に自信を持ってない学生が多いことも示されています。この結果から、数理・統計・データサイエンスに関する知識や技能の向上に資する取り組みの検討が重要な課題だと考えています。

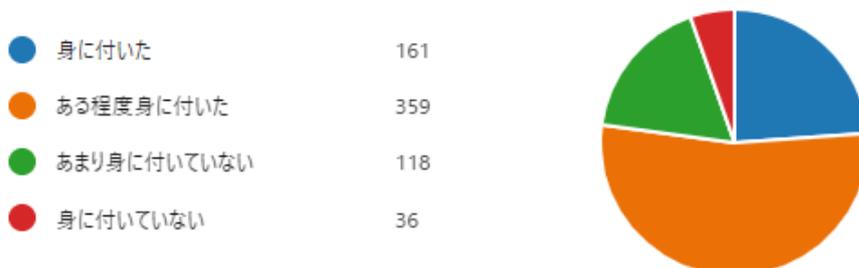
Q23 問題を見つけて解決方法を考える力はどの程度身に付いたと思いますか。



「身に付いた」「ある程度身に付いた」の合計が 511 人 (75.8%) に達し、多くの学生が問題を見つけて解決方法を考える力が一定程度以上身に付いたと考えています。一方、「あまり身に付いていない」「身に付いていない」の合計が 163 人 (24.2%) であるため、問題を見つけて解決方法を考え

る力に自信を持ってない学生が比較的多いことも示されています。

#### Q24 多様性・共生社会に関する知識はどの程度身に付いたと思いますか。



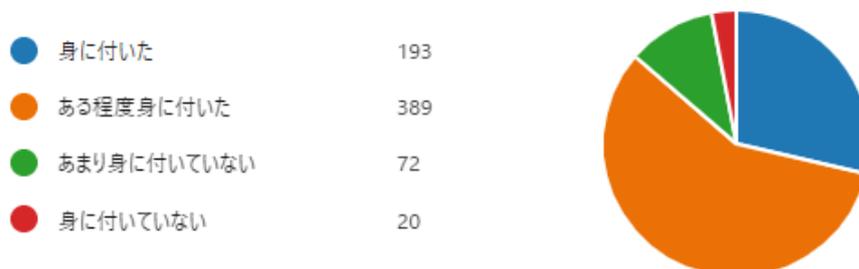
「身に付いた」「ある程度身に付いた」の合計 520 人（77.2%）に達し、多くの学生が多様性・共生社会に関する知識が一定程度以上身に付いたと考えています。一方、「あまり身に付いていない」「身に付いていない」の合計が 154 人（22.8%）であるため、多様性・共生社会に関する知識に自信を持ってない学生が比較的多いことも示されています。

#### Q25 多様な人々と協働する力はどの程度身に付いたと思いますか。



「身に付いた」「ある程度身に付いた」の合計 492 人（73.0%）に達し、多くの学生が多様な人々と協働する力が一定程度以上身に付いたと考えています。一方、「あまり身に付いていない」「身に付いていない」の合計が 182 人（27.0%）であるため、多様な人々と協働する力に自信を持ってない学生が比較的多いことも示されています。

#### Q26 幅広い知識、ものの見方はどの程度身に付いたと思いますか。



「ある程度身に付いた」「身に付いた」の合計が 582 人（86.4%）に達し、多くの学生が幅広い知識、ものの見方が一定程度以上身に付いたと考えています。一方、「あまり身に付いていない」「身に付いていない」の合計が 92 人（13.6%）であるため、幅広い知識、ものの見方が不十分であると感じる学生が一定数存在することが示されています。

Q27 異なる文化に関する知識・理解はどの程度身に付いたと思いますか。



「身に付いた」「ある程度身に付いた」の合計が 505 人（74.9%）に達し、多くの学生が異なる文化に関する知識・理解が一定程度以上身に付いたと考えています。一方、「あまり身に付いていない」「身に付いていない」の合計が 169 人（25.1%）であるため、異なる文化に関する知識・理解に自信を持っていない学生が比較的多いことも示されています。

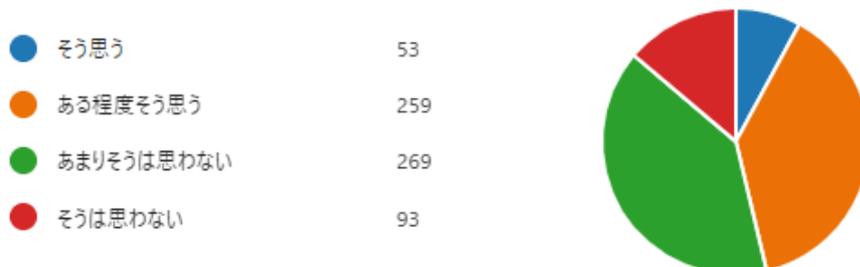
## ■大学での学び全体を振り返って

Q28 大学から卒業時まで学生が身に付けるべき知識や能力は明示されていると思いますか。



「そう思う」「ある程度そう思う」の合計が 480 人（71.2%）に達し、多くの学生が卒業時まで身に付けるべき知識や能力が明示されていると考えています。一方、「あまりそうは思わない」「そうは思わない」の合計が 194 人（28.8%）であるため、比較的多くの学生が卒業時まで身に付けるべき知識や能力が明示されていないと考えています。全体的に学生の意見は分かれており、これらの知識や能力の明示性についての課題が明らかになっていると考えますので、今後の見直しに際して考慮するようにいたします。

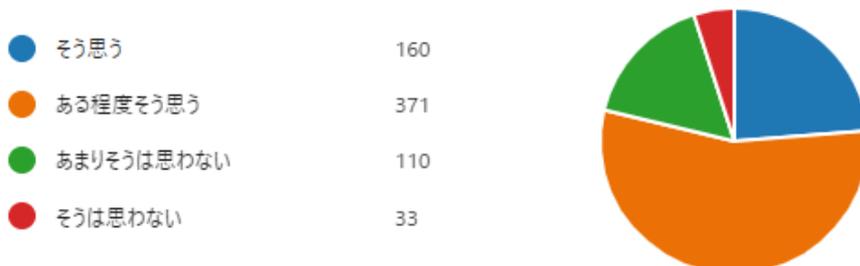
Q29 授業アンケート等の学生の意見を通じて大学教育が良くなっていると思いますか。



「そう思う」「ある程度そう思う」の合計は 312 人（46.3%）であり、授業アンケート等の学生の意見を通じて大学教育が良くなっていると、肯定的な意見を持つ学生は少ないことが示されています。一方、「あまりそうは思わない」「そうは思わない」の合計が 362 人（53.7%）に達しているた

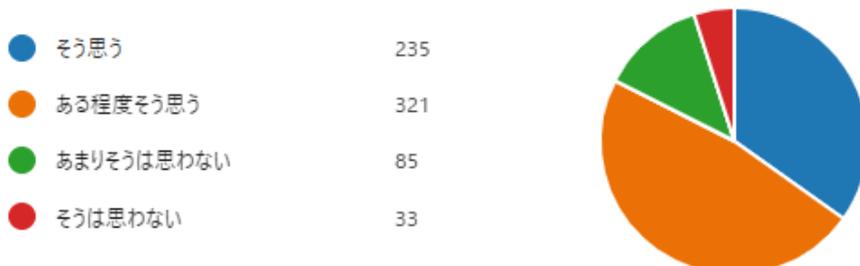
め、否定的な意見だけではなく、そもそも良くなる余地がないと考えている学生も一定数存在することが示されています。全体的に、学生の意見は分かれています。が、今回の結果を重く受け止め、今後、授業アンケートを見直す際には考慮するようにいたします。

Q30 教職員が学生と向き合って教育に取り組んでいると思いますか。



「そう思う」「ある程度そう思う」の合計が 531 人 (78.7%) に達し、教職員が学生と向き合って教育に取り組んでいると感じる学生が多いことが示されています。一方、「あまりそうは思わない」「そうは思わない」の合計が 143 人 (21.3%) であるため、一部の学生は教職員が学生と向き合って教育に取り組んでいないと感じていることも示されています。これは、学生個々の期待の違いが反映されている可能性がありますので、今後の取り組みを検討する際には考慮するようにいたします。

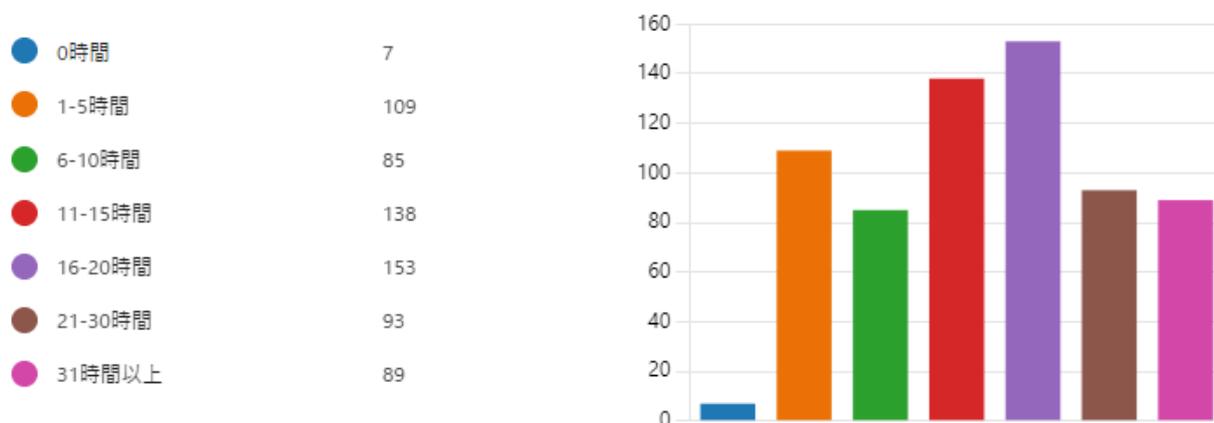
Q31 大学での学びによって成長を実感していると思いますか。



「そう思う」「ある程度そう思う」の合計が 556 人 (82.5%) に達し、多くの学生が大学での学びによって成長を実感していると考えています。一方、「あまりそうは思わない」「そうは思わない」の合計が 118 人 (17.5%) であるため、成長実感が不十分であると感じる学生が一定数存在することが示されています。

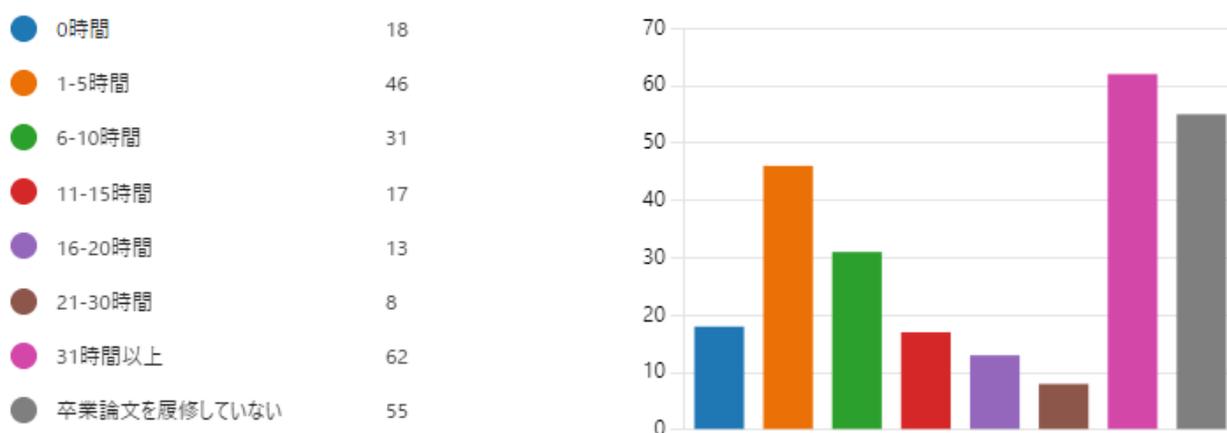
## ■今年度の授業期間中の平均的な1週間（7日間）の生活時間について

Q32 授業への出席（実験・実習、オンライン授業を含む）にどの程度の時間を費やしましたか。



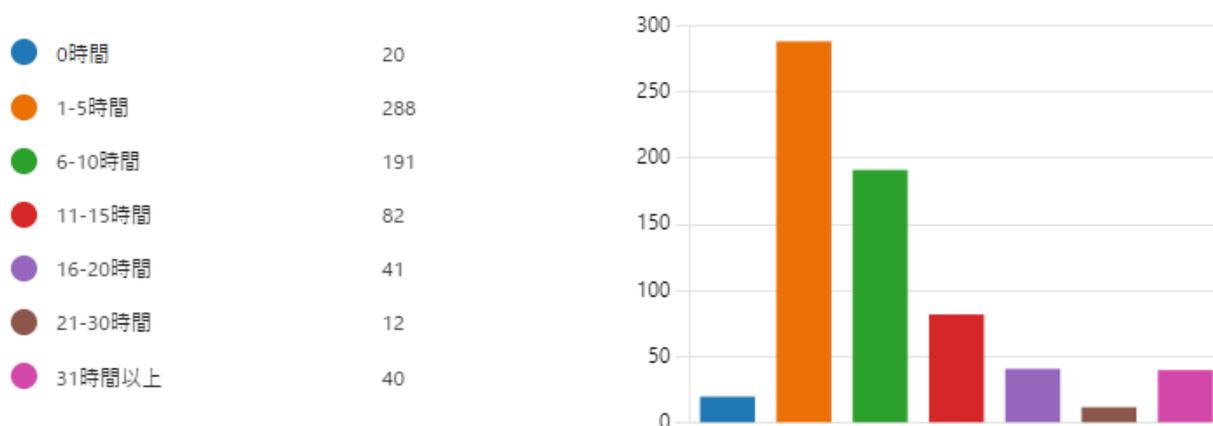
「16-20 時間」が最も多く、153 人（22.7%）がこの範囲で授業への出席に時間を費やしたことが示されています。次に多かったのは「11-15 時間」で、138 人（20.5%）がこの範囲で授業への出席に時間を費やしました。これらの結果から、学生の多くが週に 15 時間以上の時間を授業への出席に費やしていることが分かります。一方、「0 時間」や「1-5 時間」の回答もあります。また、「31 時間以上」の回答も 89 人（13.2%）あります。これは、一部の学生が非常に多くの時間を授業への出席に費やしていることが示されています。全体的に、学生の間で授業への出席に費やす時間は多様であり、個々の学生のスケジュールや学修スタイルによって異なることが示されます。

Q33 卒業論文・卒業研究・卒業制作にどの程度の時間を費やしましたか。（3・4年生のみ）



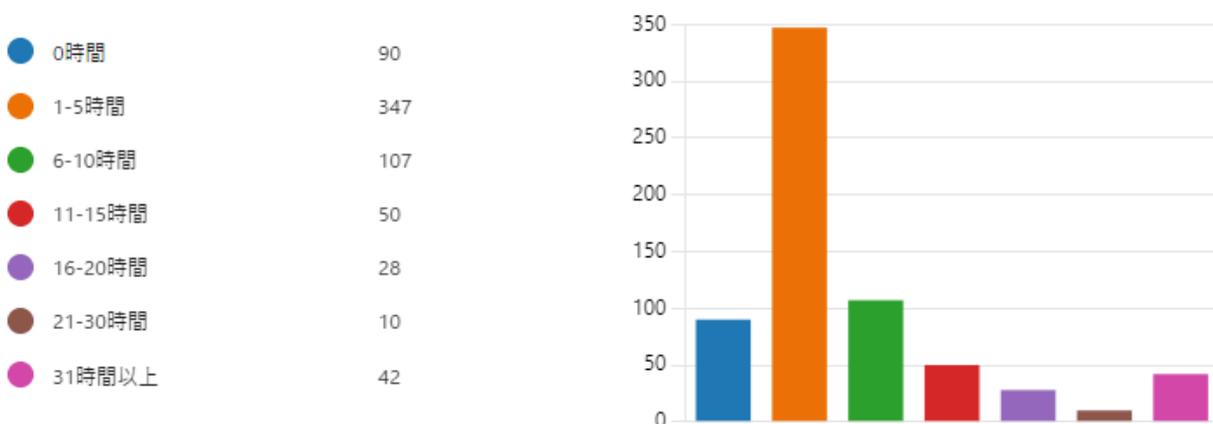
学生の回答には、全く時間を費やさなかった学生から、非常に多くの時間を費やした学生まで、幅広い傾向が見られます。「31 時間以上」の回答が 62 人と最も多く、「1-5 時間」の回答が 46 人と続き、時間の費やし方には大きなばらつきが見られます。全体的に見ると、学生の卒業論文や研究、制作に対する関心や取り組み方には個人差が大きいことが分かります。一部の学生は熱心に取り組む、一方で他の学生はそれほど時間を費やしていないことが示されています。

Q34 予習・復習・課題など授業に関する学習（卒業論文は除く）にどの程度の時間を費やしましたか。



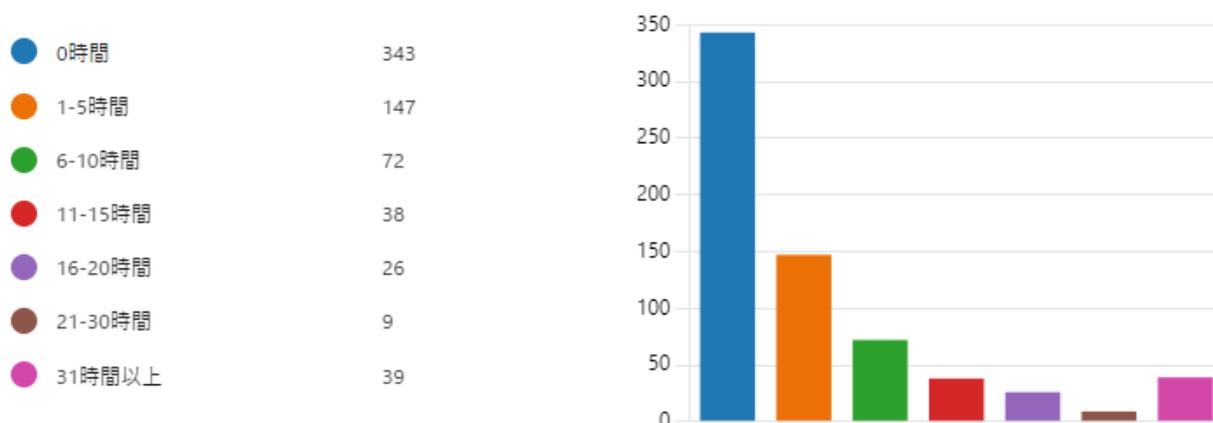
「1-5 時間」が最も多く、288 人（42.8%）がこの範囲で学習に時間を費やしたことが分かります。次に、「6-10 時間」が 191 人（28.3%）と続き、比較的少ない時間を費やす学生が多い傾向があります。一方で、「31 時間以上」の回答が 40 人（5.9%）とそれなりに存在しており、一部の学生が多く時間を授業に費やしていることも分かります。回答者の中には全く時間を費やさなかった学生から、31 時間以上費やした学生まで幅広い回答があります。このことから、学生の学習に対する取り組み方には多様性があり、個々の学生のスケジュールや学習スタイルに応じた学習時間の選択が行われていることが示されています。

Q35 授業と直接関係しない自主的な学習にどの程度の時間を費やしましたか。



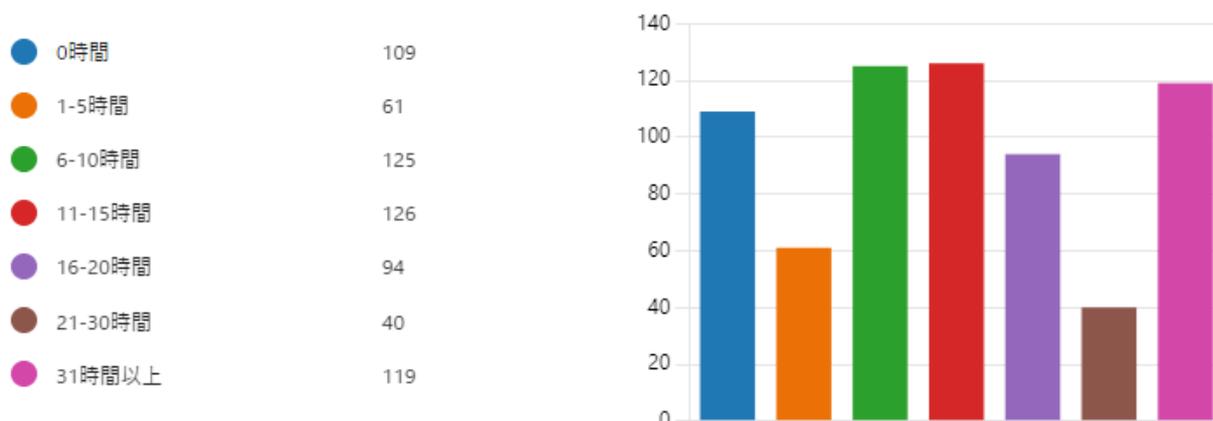
「1-5 時間」の回答が最も多く、347 人（51.5%）がこの範囲で自主的な学習に時間を費やしたことが分かります。次いで、「0 時間」の回答が 90 人（13.4%）と続きます。この結果から、多くの学生が週に 1 時間以上 5 時間以下の時間を授業と直接関係しない自主的な学習に時間を費やしていることが示されています。一方で、「31 時間以上」の回答が 42 人（6.1%）います。これは、一部の学生が非常に多くの時間を自主的な学習に費やしていることを示しています。全体的に見ると、学生の間で自主的な学習に費やす時間には多様性があり、多くの学生が少なくとも 1 時間以上の時間を自主的な学習に割いていることが示されています。

Q36 部活動／サークル活動にどの程度の時間を費やしましたか。



部活動やサークル活動にまったく時間を費やさない学生が最も多く、回答者は 343 人 (51.0%) でした。一方、31 時間以上費やす学生は比較的少数で、回答者は 39 人 (5.8%) でした。次に多かったのは、「1-5 時間」で、この範囲で活動に時間を費やした学生は 147 人 (21.8%) でした。その後、「6-10 時間」や「11-15 時間」、そして「16-20 時間」という順番で、時間を費やす学生の数が増減していきいます。

Q37 アルバイト／定職にどの程度の時間を費やしましたか。



「0 時間」という回答が 109 人 (16.2%) で最も多く、次いで「31 時間以上」が 119 人 (17.7%) と続きます。この結果は、アルバイトや定職にまったく時間を費やさない学生と、週に 31 時間以上を費やす学生が比較的多いことを示しています。さらに、「1-5 時間」や「6-10 時間」、「11-15 時間」といった中程度の時間を費やす回答者もそれぞれ 61 人 (9.1%)、125 人 (18.5%)、126 人 (18.7%) と一定数います。また、「16-20 時間」や「21-30 時間」といった比較的長い時間を費やす回答者も 94 人 (13.9%)、40 人 (5.9%) といます。これらの結果から、学生の間でアルバイトや定職に費やす時間にはかなりのばらつきがあり、それぞれの学生が自身の生活や状況に応じて働く時間を選択していることが示されています。

Q38 本アンケートや、大学での学びについて意見がありましたら教えてください。(自由記述)

学生の皆様から貴重なご意見を 99 件いただき、心より感謝申し上げます。受け取った意見を真摯に受け止め、今後の改善に努めてまいります。以下、特に多くのご要望があった事項について、現時点での考えを示します。

- 履修登録に関する不満が寄せられました。特に、抽選が行われることに不満を感じる学生が多かったです。学生が自身の興味や関心に合わせて授業を履修できる環境を整える必要があると考えています。新しい教務システムへの改修も含め、各学部・学科の時間割編成の担当教員と協力し、改善できるように検討します。
- オンデマンド型授業の拡充に関する要望も多く寄せられました。オンデマンド型授業は、学生自身のスケジュールに合わせて授業を受講できる柔軟性が提供できるだけでなく、繰り返し学修による教育効果の向上も期待できます。令和 7 年度の開講講座から、オンデマンド型授業の比率を増やすことができないか検討します。
- 同一授業科目における教育の均一化に関する要望も多く寄せられました。質の高い教育は教員の能力や情熱によって支えられていますが、同時に授業の均一性も重要であり、同一授業科目における教育環境の公平性を担保するための改善が必要だと認識しています。
- 教員からのフィードバックの充実とディスカッション形式の授業の拡充が求められていました。フィードバックは、学生の成長を促し、学修を深めるために欠かせないものであり、ディスカッション形式の授業は批判的思考やコミュニケーション能力の向上に貢献するものです。今後、これらの教育方法の拡充について検討します。